

タゲリ (*Vanellus vanellus* Linne) の繁殖について

上 木 泰 男

本県に生息する大型のチドリ科の鳥にタゲリとケリがあるが、戦後タゲリについては渡来数がだんだん減少してきた種類の一つとされてきた。嶺南、嶺北のいづれでも秋10月中、下旬頃に渡来し、翌春3月中旬頃に渡去する種類だが、比較的親しみのうすい鳥であった。南越の鯖江、武生の一部では例年かなりの数が渡来する。多い年には300羽以上少ない年でも80羽内外のものが観察されている。純粹な冬鳥と思われてきたこの鳥が、昭和45年頃からいくつかの越夏例が記録されるようになった。愛知県鍋田干拓地、千葉県新浜、福井県鯖江市などが主なものである。

その頃から国内でもひよっとすると繁殖しているのではないかと臆測がされ始めた。

昭和47年5月1日、例によって朝の出勤前鯖江市市川去町の休耕田で渡去の遅れたタゲリ1羽を発見した。渡去の遅れた個体ぐらいにしか思わなかったが、いつになく警戒心がうすく近くでしきりに鳴きながら擬傷する行動が観察された。もう完全な夏羽に変化していたが様子がどうもおかしいので注意していたところ、親から7~8mはなれた所に見てケリと全く見誤るような単立ちヒナを発見した。親は懸命に誘導している様子だったが筆者が近くにいるためかそのヒナは地上に腹ばって動かこうとしない。しかしこのヒナがタゲリのものであることはまず間違いないと思った。早速、カメラをとりだして貴重な記録写真を撮ろうと思ったが、あいにくその時にかぎって標準レンズを持たなかった。やむなく500mm望遠で中間リングを使って撮影した。ヒナの腹ばっている写真を横の方からとろうとするのだからうまくいくはずもなかった。数日後自分でそのフィルムを現像、焼付をすませ高野伸二氏(日本野鳥の会理事、日本鳥類保護連盟指導部長)に送って鑑定していただいたところ、はっきりタゲリのヒナであるという確証は得られなかった。その後何回かでかけたがそれ以来親とヒナ共に観察はできなかった。

その年の夏、石川県河北潟の近くで幼鳥らしいタゲリが何羽か生息が確認されて撮影されたとの報告を高野氏からきいた。

翌年の春から可能性がさらに強くなったとして3月頃から調査を開始したが遂に発見するまでには至らなかった。その年の5月のある夜、私あてに東京から長距離電話がかかってきた。高野氏からのものであった。その要旨は石川県加賀市柴山潟干拓地でタゲリが何個体が繁殖していることが矢田新平氏らによって確認されたとの報告であった。もちろん国内での初記録であった。我々の努力も空しく先を越されてしまった訳で何とも口惜しい限りであったが致しかたないと思った。繁殖の発見のむつかしさをあらためて知らされた思いであった。

翌年(1974年)、4月初旬に入ってケリの繁殖状況の調査を続行している或る日のことであった。ケリのけたたましい警戒声をたよりに営巣場所を調査しようとしていた時であった。聞ききれないタゲリの独特の鳴声がすぐ近くから聞えてきた。我々から20~30mの地点に2羽のタゲ

りがいるのを発見するまでに時間はなにほどもかからなかった。

美しい夏羽の2羽はもう発情しきっている感じであった。そうこうしているうちに交尾が見られた。近くに必ず巣があることが直感的にわかった。2巣がありそれぞれに新鮮な4卵が産み落されていた。大きさ、形、紋様などはケリのそれと殆んど変らなかつたがよく観察してみるとその地肌が幾分青っぽいのに気づいた。よほど馴れた人でも見誤るほどのものであった。その後10日程の間にもう2巣が発見されて4巣となった。

普通の水田の中に散在した切ワラの上に作った巣は全く巢材らしきものが使われず、無雑作に産み落とされた感じのものであった。周囲が急に騒々しくなった。荒耕し作業がもう隣の水田まできている。何とかしてこの巣と卵を保護したいと願って話合いをもったが……致し方のないことであつた。せめて我国で2番目の繁殖の記録をこの眼で確かめることができただけでも喜ばねばならないのだから。繁殖の南限が石川県からさらに数十キロ南へさがつた意味は大きいとせねばならないだろう。ヨーロッパでの繁殖の南限がこの緯度と殆んど同緯度であつたことは全く興味深い。あとでわかつたことであるが放棄された卵の計測をやつたところ大きさの面でも重さの面でもかなり小さかつたことから繁殖にあつた個体が若い個体であろうことが十分想像されるがこの結果からだけで判断することは早計とも思える。英国やデンマーク、オランダではごく普通の繁殖鳥であり個体数も多いとされているが我国では珍しい繁殖の記録であることはいふまでもないが、これからは各地から繁殖の記録がきけるのではと……注目している。

福井県よりわずかに遅れて同年新潟県の高田平野でも繁殖が確認された。

何を好んで北陸や信越のような雪深い地域が繁殖地選ばれたのか筆者にとって全く不思議でない。この素直な疑問がいつどんな形で解決されるか……ますます面白くなつてきたと心ひそかに思っているのは筆者だけだろうか？

(福井工業高等学校)
(福井科学技術高等学校)